

日本都市学会第72回大会開催のお知らせ

概要は以下のとおりです。詳細は、こちらの大会案内か、
大会 HP (<https://urbanology-saga.peatix.com/>)でご確認ください。

1. 開催概要

開催日:2025年11月7日(金)～11月9日(日)

開催地:佐賀県佐賀市本庄1 佐賀大学本庄キャンパス

主催:日本都市学会、九州都市学会

後援:佐賀県、佐賀市、佐賀市教育委員会

会場:佐賀大学本庄キャンパス

(佐賀駅バスセンターから路線バス所要約15分)

大会参加費:3,000円(大会予稿集代含む)

非会員の方は、シンポジウムのみ参加は無料です。

その他のプログラムに参加する場合は、大会参加費と各費用をいただきます。



2. 大会テーマ

「スポーツとまちづくり」

3. スケジュール(最新情報は大会HPでご確認ください)

【11月7日(金)】

14:00～17:00 エクスカーション

(13:50 徴古館前集合) ガイド:有馬隆文氏(他2名予定)

徴古館・佐嘉神社⇒わいわい!!コンテナ2⇒開運さが恵比須ステーション⇒

⇒佐賀市歴史民俗館⇒柳町散策

※天候等により変更有

※参加費2,000円(資料代、入場料、喫茶代含む)、30名程度(申込順)

18:00 理事会 会場:どんどんの森(アバンセ) (佐賀駅から徒歩約10分)

【11月8日(土)】

9:00～12:00 研究発表1 @佐賀大学本庄キャンパス 教養教育2号館2103教室他2教室

13:00～16:45 大会挨拶/シンポジウム

@佐賀大学本庄キャンパス 教養教育2号館2101教室

司会 山口夕妃子(佐賀大学教授)

13:00～13:10 開会挨拶 日本都市学会会長 山崎 健

九州都市学会会長 石川雄一

13:15～16:45 シンポジウム「スポーツとまちづくり」

13:15 基調講演(～14:15) 佐賀市スポーツ政策アドバイザー 宮城 亮氏

14:25 パネルディスカッション(～16:45)

コーディネーター

山下宗利(放送大学佐賀SC所長)

パネリスト

白井 誠氏(SAGA サンライズパーク(株) SAGA サンシャインフォレスト事務局長)

角田孝太郎氏(佐賀大学経済学部教授)

山田健一郎氏(佐賀未来創造基金理事長)

笠原美鈴氏(SpoWell Lab株式会社代表取締役 CEO)

17:00～17:30 日本都市学会賞授与式 @佐賀大学本庄キャンパス 教養教育2号館2101教室
17:30～18:00 日本都市学会総会 @佐賀大学本庄キャンパス 教養教育2号館2101教室

18:30～20:30 懇親会(第2生協かささぎホール2階(佐賀大学内)) 懇親会費 5,000円

【11月9日(日)】

9:00～12:00 研究発表Ⅱ @佐賀大学本庄キャンパス 教養教育2号館2103教室他2教室

4. 研究発表の募集

(1) 申込資格

発表申込者は会員(入会手続き中のものを含む)に限ります。共同発表の場合、共同発表者全員の氏名、所属を明記するとともに、口頭発表者(1名のみ)に○印をつけてください。口頭発表は1人1回限りとします。なお、発表申込後の共同発表者の変更は認められません。また、共同発表者の中に非会員が含まれていても構いませんが、『日本都市学会年報』に投稿される際には、著者全員が会員である必要があります。

※論文を投稿される際、査読付き論文の提出期限は2025年11月30日必着、無審査論文の提出期限は、2026年4月20日必着となります。

(2) 申込方法

研究発表を希望される方は、以下の URL にアクセスし、必要事項を入力してお申し込みください。発表申込の締切は9月1日(月)[期限厳守]とします。また、大会参加申込は別になりますので、ご注意ください(以下、「5. 大会参加申込」を参照下さい)。

入力フォームにある「大会テーマ分科会」とは大会テーマに関連を持つ発表を集めた分科会、「自由テーマ分科会」とはそれ以外の分科会です。なお、申込みが少ないなどの理由で大会テーマ分科会が成立しなかった場合は、大会テーマ分科会に申し込まれた方も自由テーマ分科会に割り振らせていただくことをご承知おきください。また、発表日時については、分科会を構成する都合上、希望はお受けできませんのでご了承ください。プログラムが確定しましたら、大会 HP でご連絡いたします。

発表申込: <https://forms.gle/eTg8zpsBZt68BpNx6>

(3) 発表要旨の提出

発表要旨のワードファイルとPDFファイルを電子メールに添付し、件名を「佐賀大会要旨(ご氏名)」として、2025sagaconfe.ntg@gmail.com にお送り下さい。

①論文書式テンプレートをダウンロード(2ページ以内)

https://docs.google.com/document/d/1ycULJrSChip5a3D4xKaPuo0QOw9aQ0DPXG_zEcp9SI/edit?usp=sharing

②9月15日(月)[期限厳守]

(4) 発表申込・発表要旨の確認

研究発表の申込や発表要旨の提出をした場合、担当者から受信確認のメールを送りますので、必ずご確認ください。3日以上経っても受信確認メールが届かない場合は、送信先にお問い合わせください。

5. 大会参加申込

研究発表をしない方も、シンポジウムやエクスカージョンに参加される方は、以下の URL にアクセスまたは右の QR コードを読み取り、必要事項を入力してお申し込みください。

申込締切は 9 月 30 日 (火)です。

大会参加申込: <https://urbanology-saga.peatix.com/>

※Peatix 等によるオンライン申込・決済・領収証発行を基本とします。

※チケットの購入間違いにご注意ください。

6. 大会に関する問い合わせ先

〒840-8502 佐賀市本庄町 1 番地

九州都市学会事務局(佐賀大学 芸術地域デザイン学部 山口・有馬)

TEL:0952-28-8577

E-mail: ktoshigaku@gmail.com

※件名を「佐賀大会問い合わせ(ご氏名)」としてください。

7. 宿泊案内

佐賀市内には宿泊施設が大変限られておりますので、宿泊については各自で早急に予約していただくことをお勧めします。

8. 会場までのアクセス

(1) 最寄駅までのアクセス

大会会場の最寄駅は長崎本線・佐賀駅になります。最寄駅までのアクセスは、以下の経路を参考にしてください。

鉄道

博多駅—(JR 鹿児島本線・JR 長崎本線)—佐賀駅

九州新幹線新鳥栖駅—(JR 長崎本線)—佐賀駅

飛行機

福岡空港—(福岡市営地下鉄)—博多駅—佐賀駅

福岡空港—(西鉄高速バス)—佐賀駅バスセンター

佐賀空港—(佐賀市営バス)—佐賀駅バスセンター

(2) 佐賀駅(佐賀駅バスセンター)から会場までのアクセス

佐賀駅(佐賀駅バスセンター)から会場までは、

市営バス(約 15 分)もしくはタクシー(約 10 分)をご利用ください。

いずれもバス停「佐賀大学前」下車

佐賀駅バスセンター「4 番のりば」から市営バス

【4 番】佐賀大学/佐賀女子短大・高校線(中央大通り・辻の堂・佐賀大学前経由)

【11 番】佐賀大学・西与賀線

【12 番】佐賀大学・東与賀線

【63 番】佐賀女子短大・高校線(紡績通り・与賀町・佐賀大学前経由)

佐賀市交通局ホームページ <https://www.bus.saga.saga.jp/diagram/index.html>

佐賀大学ホームページ <https://www.saga-u.ac.jp/access/>

なお、佐賀大学本庄キャンパスには有料駐車場もあります。構内への入構は原則として入構料金が必要で、出構時に料金精算をお願いします。料金は、入構から 1 時間毎に 100 円加算されます(最大料金の設定なし)。短時間利用(1 時間以内)の場合は無料です。

9. その他

大会当日、学内の食堂は営業していません。会場周辺にはコンビニはありますが飲食店はございません。土曜日の昼食弁当を希望される方は、大会参加申し込みと同時に、Peatix よりご予約お願いいたします。

お弁当代 1,000 円(お茶代含む)

【日本都市学会第 72 回大会開催趣旨文】

スポーツとまちづくり

—する・観る・支えるの3つの観点から—

大都市と地方都市の格差拡大は、日本社会の深刻な課題である。地方都市では人口減少や産業の衰退、若者の流出などが進み、地域社会の存続が危ぶまれている。こうした中、スポーツが地域活性化の新たな手段として注目を集めている。

従来の商業活性化を中心とした都市再生策では十分な成果を上げられず、近年は地域の特性に応じた多様な取り組みが展開されている。例えば、テレワークの推進や ICT の活用による移住促進策、地域の特産品や歴史文化を活かした観光振興策、インバウンド観光の誘致、起業支援を伴う産業振興策などが挙げられる。これらは地域資源を最大限活用し、多様な主体が連携する方向へと進化している。また、地域イベントの開催や住民同士の絆を深める取り組みなど、地域コミュニティの活性化を重視する動きも見られる。

こうした潮流の中で、スポーツが重要な役割を担い始めている。日本全体の高齢化や健康意識の高まりを背景に、スポーツを通じた地域振興策が各地で実施されている。スポーツイベントの開催やスポーツツーリズムの推進を通じて地域の魅力を高め、経済活性化を図る試みが増えている。

スポーツには「する・観る・支える」の3つの側面があり、幅広い影響を及ぼす。誰もが気軽にスポーツを楽しめる環境整備や住民の健康増進、アリーナを複合施設として活用する都市再生の手法、地域スポーツ団体の支援を通じた地域愛着の醸成などがその例である。また、スポーツを活用した国際交流の推進や、経済・社会・文化面での波及効果も期待されている。

スポーツ振興策とまちづくりは相互に影響し合いながら発展している。最近では、地方自治体が地域活性化の一環としてプロスポーツチームの誘致や創設を進める事例が増えている。しかし、施設の建設・維持管理の財源確保、人材育成、住民の意識改革などの課題も存在する。スポーツを単なる娯楽にとどめず、社会全体の課題解決と結びつけることが求められる。また、市民が気軽にスポーツを楽しめる環境づくりも重要である。

本大会では、スポーツ振興策が地域経済の活性化やコミュニティ形成、地方都市再生にどのように貢献するのか、具体的な事例を交えながら考えていきたい。